「研究データ利活用協議会」(RDUF) 令和 5 年度の活動総括

令和 6 年 3 月 29 日
研究データ利活用協議会

令和 5 年度は、令和 4 年度に引き続き以下の 3 つの方針を掲げ活動を行った。

【「研究データ利活用協議会」令和 5 年度の活動方針】
1. 様々な知見やユースケースを共有し、関係者間のネットワークを構築・強化するための場をつくる。
2. 参加機関の現場の抱える関心事などについて検討し、その結果を「研究データ利活用協議会」の成果物（ガイドライン、ノウハウ集、事例集など）としてまとめることを目指す。
3. 普及・広報活動を強化し、「研究データ利活用協議会」のプレゼンス向上を図る。

この方針を受けて、具体的には次の活動を行った。

1. 関係者間のネットワークを構築・強化するための場の醸成

(1) 公開イベントの開催

・ RDUF 公開シンポジウムを令和 5 年 12 月 14 日（月）に実施した。

(2) 情報共有やディスカッション

・ 企画委員会における部会・小委員会との情報共有

- 令和 5 年度第 1 回 RDUF 企画委員会（令和 5 年 6 月 30 日）にて、 小委員会・部会間、および企画委員とのコミュニケーションの促進ならびに成果物作成等における意見交換の場の提供を目的として、小委員会・部会との情報共有を承認。
- 令和 5 年度第 2 回 RDUF 企画委員会（令和 5 年 8 月 30 日）にて実施。データ共有・公開制度検討部会、およびジャパンデータリポジトリネットワーク推進部会 (JDARN)が参加。活動の近況、成果物や議論の進捗・悩み相談、企画委員会や RDUF の運営などに関して活発な意見交換を行った。

・ メーリングリストを活用し、イベントの案内など会員に有益な情報を共有した。

表 1. 「研究データ利活用協議会」メーリングリスト

種類	アドレス	今年度活用実績
情報共有	rduf-share@mr.jst.go.jp	18 件

2. 小委員会の活動

小委員会は、会員の中で共通する課題をもった有志が集まり、課題解決に向けて意見交換をし、その成果を指針やガイドラインの形で世の中に提言して、研究データ利活用に資することを目的として設置されている。令和 5 年度は、前年度から継続して小委員会 2 件が活動した。

【令和 5 年度に活動した小委員会】

① 研究データへの DOI 登録促進
② 研究資料・実験機器への PID 付与検討小委員会

国内の多様な公的機関や民間企業に所属する参加者が、研究データ利活用の促進のために有用となる成果物等をとりまとめための議論や情報共有を行った。令和 5 年度における各小委員会の活動の詳細を以下に示す。

① 研究データへの DOI 登録促進

委員長	白井 知子（国立環境研究所）
委員数	17 名
活動期間	2021 年 11 月～2023 年 4 月
目的	現在の研究データへの DOI 登録に関する運用経験、実情、課題等を調査・議論し、「研究データへの DOI 登録ガイドライン」の改定、あるいは現状に即した新しいドキュメントを作成することについて検討する。「研究データへの DOI 登録ガイドライン」改定版等ドキュメントや、検討・調査結果等を成果物としてとりまとめることで、研究データへの DOI 登録促進を目指す。
主な活動内容	「研究データへの DOI 登録ガイドライン」の再検討およびそれらに係る議論、情報共有。
主な成果物	・「研究データへの DOI 登録ガイドライン」改定版 （2023 年度内に公開予定）
小委員会開催等 ※令和 5 年度のみ。回数は活動期間の通算。	第 14 回：令和 5 年 4 月 20 日（リアル開催） 第 15 回：令和 5 年 7 月 4 日（リアル開催） ・ 令和 5 年度は、初の対面ミーティングを行い、「研究データへの DOI 登録ガイドライン」改定版および 研究データへの DOI 登録促進に向けた提言の総仕上げに向けた議論等を行った。 ・ RDUF 公開シンポジウム（令和 5 年 12 月 4 日開催）にて、活動内容および成果物について報告した。

② 研究資料・実験機器への PID 付与検討小委員会

委員長	青木　学聡（名古屋大学）
委員数	7 名
活動期間	令和 4 年 4 月～令和 5 年 9 月
目的	オープンサイエンス対応を含め、研究 DX の推進には、最初からデジタル(ボーンデジタル、born-digital)な対象に加え、研究に用いた試料、史資料、機材等の有体物に関する情報もサイバー空間において参照できるようにすることが不可欠である。本小委員会では、これら有体物としての研究資源に付与する永続的識別子(PID)とこれに付随するメタデータの管理と利活用に関する調査を実施する。
主な活動内容	・ 試料・史資料や実験・観測機器等の研究資源管理の効率化、及びこれらを用いた研究成果のビジビリティ向上のために必要とされるデジタル技術・運用制度に関する課題の取りまとめ。 ・ 研究資源への PID とメタデータの付与・管理に関する世界的動向を、制度面、技術面双方より調査し、日本語レポートとして作成する。
主な成果物	● PIDINST に関するドキュメント日本語訳版の公開[1] ・PIDINST ホワイトペーパー (PIDINST Whitepaper の日本語訳） ・ePIC クックブック (ePIC Cookbook の日本語訳） ・DataCite クックブック (DataCite Cookbook の日本語訳） 上記ドキュメントのソースファイル[2] ● 議論の経緯と今後に向けた提言[3]
小委員会開催等 ※令和 5 年度。 回数は活動期間の通算。	第 10 回：令和 5 年 7 月 3 日 第 11 回：令和 5 年 7 月 31 日 第 12 回：令和 5 年 8 月 25 日 第 13 回：令和 5 年 9 月 11 日 ・ 令和 5 年度は、提言の方向性など成果報告書のとりまとめについて議論した。また、RDA の PIDINST(PID for Instruments) が公開している各種ドキュメントの日本語版の完成・公開に向けた活動を行った。 ・ データ共有・公開制度検討部会主催の Japan Open Science Summit 2023 企画セッション「コンテキストを説明するメタデータ」（令和 5 年 6 月 23 日）にて青木委員長が登壇した。 ・ RDUF 公開シンポジウム（令和 5 年 12 月 4 日開催）にて、小委員会活動や成果物について報告し、今後に向けた提言を発表した。

[1] https://docs.pidinst.org/ja/

[2] https://github.com/rdawg-pidinst/white-paper-ja

[3] https://japanlinkcenter.org/rduf/doc/rduf_pidrri_report3.pdf

3. 部会の活動

オープンサイエンスの実現と拡大に資するため、小委員会活動等によって得られた知見の継承と展開を長期的、継続的に行うこと等を目的として、RDUF 企画委員会の下に部会を設置できることとしている。令和 5 年度は昨年度に引き続き次の部会が活動した。

①　データ共有・公開制度検討部会
②　ジャパンデータリポジトリネットワーク推進部会（JDARN）

①　データ共有・公開制度検討部会

委員長	南山　泰之（国立情報学研究所）
委員数	12 名
目的	「RDUF 研究データライセンス小委員会」による活動の継承と展開。
主な活動内容 ※令和 5 年度のみ。回数は活動期間の通算。	・「研究データの公開・利用条件指定ガイドライン」の広報活動及び点検・更新 ・関連動向の情報共有（ML のほか、不定期での会合を想定） ・他の活動体との連携（例：データ流通推進協議会、デジタルアーカイブ学会 法制度部会など） ・研究データ利活用にまつわる法的・制度的課題に関する論点の検討、体制整備支援 ・上記成果物に関連した学会・セミナー発表 ・政策提言を見据えたドキュメンテーション作成 等
部会開催等	第 1 回：令和 5 年 4 月 24 日 第 2 回：令和 5 年 6 月 6 日 第 3 回：令和 5 年 7 月 19 日 第 4 回：令和 5 年 11 月 6 日 第 5 回：令和 5 年 11 月 27 日 第 6 回：令和 6 年 1 月 16 日 ・Japan Open Science Summit 2023 企画セッション「コンテキストを説明するメタデータ」開催（令和 5 年 6 月 23 日）。部会にて企画や振り返りを行った。 ・RDUF 公開シンポジウム（令和 5 年 12 月 4 日開催）にて、活動について報告した。

② ジャパンデータリポジトリネットワーク推進部会（JDARN）

委員長	八塚　茂　（製品評価技術基盤機構　バイオテクノロジーセンター バイオデジタル推進課）
委員数	25 名
目的	JDARN は、2017 年から 2020 年にわたり RDUF 小委員会として活動してきたが、本部会はその活動の継承及び展開を目的とする。具体的には下記の３点である。 １．国内にあるデータリポジトリの信頼性を国際的に期待されている水準に高めるための活動（リポジトリガイドライン等）を行う。 ２．データリポジトリへの要求の多様化に対応して、共通の課題を議論する。 ３．データリポジトリ関係者のコミュニティを形成する。
主な活動内容	・ ミーティング・勉強会・セミナーの開催（月 1 回程度） ・ 勉強会・セミナー・調査等で得られた知見に基づく調査報告書の作成（年 1 回） ・ RDUF 総会・公開シンポジウム、JOSS などオープンサイエンス関連イベントへの参加
部会開催等	第 1 回：令和 5 年 10 月 6 日 第 2 回：令和 5 年 11 月 14 日 第 3 回：令和 5 年 12 月 12 日 ・ RDUF 公開シンポジウム（令和 5 年 12 月 4 日開催）にて、活動について報告した。 ・ 「データリポジトリと LLM 勉強会」初回キックオフを LLM 勉強会と合同開催（令和 6 年 1 月 26 日）

4.　その他

令和 5 年度の個人会員の入退会状況は次のとおり。

- 令和 5 年度新規入会会員数：17 名
- 令和 5 年度退会会員数：4 名

－　以　上　－